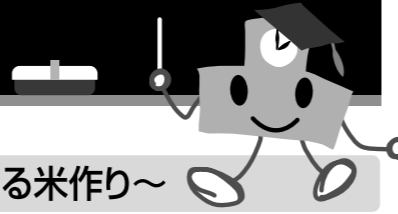


小学校の事例 北区 茨戸小学校

地域の協力により米作りを体験。田植えから収穫までを実践し、みんなで試食。

上級生が下級生に教えるたて割りグループでの米作り。実践しなければわからなかった苦労や責任を感じることで、食に限らず自然や物の大切さを学ぶ取組。



内容 地域環境を生かした特色ある活動～全校児童による米作り～

本校では、地域環境を生かした特色ある教育活動として、「米作り」を行っている。近隣の農家から田んぼをお借りし、「田植え」から「収穫」までの一連の活動を体験するだけでなく、実際に自分たちが苦労して育てた米を食べることで、収穫の喜びや、米作りの苦労を実感として味わわせたいと考えたからである。そこから、食べ物を大切に作る心や、環境を守り次世代に語り継いでいく実践的な態度の育成も合わせて培いたいと願っている。

8年前の開始当時、この活動は5～6年生のみで行っていた。6年前から全校児童でたて割りグループを作り、茨戸米として1年生から6年生まで、全員が協力し汗を流して米作りに精をだすようになった。

「米作り」の流れとして、6月の「田植え」をかきわりに、数回にわたり「稲の生長観察」「水生生物の観察」を行い、10月には、実際に鎌を使い「稲刈り」をし、脱穀機を使った「脱穀体験」も同時に行っている。収穫後は、お世話になった農家の方や「米作り」の指導に関わってくださった方をお招きし、収穫祭として「おにぎりパーティー」を行っている。本校PTAが提供してくれた飲み物やソーセージと、各自が持参した具材を握り込んだおにぎりを、満足そうにほおぼる子供たちの笑顔の中に、収穫の喜びを実感している姿がうかがえる。

2月には、「ふるさとふれあい給食」として、保護者、近隣の養護老人施設の方々、地域で日頃からお世話になっている方々をお招きし、自分たちを支えてくださっている多くの方に、収穫の喜びと感謝の気持ちを伝えている。この活動をとおして、地域と子供たち

の絆は、より強く強いものになっている。子供たちにとっても、地域で生きていること、みんなに支えられている自分を意識することができる、とっておきの機会である。

また、本校ではこの活動で生じた「稲わら」を無駄にせず、乾燥させてリースの制作を行っている。そのことが生活に転移し、トイレトペーパーの芯を無駄に捨てずに夏休みの工作に使用したり、本来捨てられるべきものの中から、使えるものを再利用したりするなど、ものを大切にする意識や、常に環境に配慮する意識が芽生え、育ってきている。



茨戸米「米作り」の様子

効果 米作りをとおして食の大切さを実感

米作りの実体験を通して、子供たちは食の大切さを理解するようになった。食べ物の無駄をなくそうという意識が生まれ、給食の残量が減少している。またたて割りのグループで活動することで、上級生が下級生に教えるといった子ども同士のふれあいが生まれ、責任感が高まるなどの人間的成長がみられる。校内に限らず地域の人々との交流も深まり、活動が地域の人に喜んでもらえることで、子どもはより高い意欲をもって取り組むことができている。

このような実体験は、実践しなければわからなかった苦労を感じることができるため、食に限らず自然の

大切さや物の大切さを学ぶことにつながっている。そのため環境を大切にしようという気持ちが自然と芽生え、日々の生活でも高い意識をもって生活することができている。学校全体でのごみの減量はもちろん、公園などにもほとんどごみが落ちておらず、地域全体で環境への意識が育っている。



茨戸米

今後 地域の特性・環境を生かした教育活動を

本校は小規模校であり、人との関わりが限定的になりがちなため、より多くの人との関わりを求め、地域にある農家のご協力を得て稲作体験を教育活動に取り入れている。8年間継続してきたことで、地域の方々と児童とのコミュニケーションの場も増え、そのことが学校への理解を深めることにもつながっている。今後も地域一体となつての活動となるよう努力していくことが重要である。

近年、学校を取り巻く環境も徐々に変わってきているため、この活動を今後どうしていくか検討も必要な時期となっている。「水郷ばらと」にふさわしく、川を素材にした活動も視野に入れて検討しているところであるが、今後も地域にある素材を活用し、身近にある環境を生かした体験活動を通して、自然・ものの大切さや環境問題を「他人ごと」ではなく「自分ごと」として感じられるような子どもを育てていきたいと考えている。

札幌市立茨戸小学校の 米作り農業体験学習

○札幌市立茨戸小学校では、平成15年度から近隣農家の水田をお借りして米作りを通じた食に関する教育に取り組んでいます。
○学校・PTA・生産者が協力しながら取り組みを進め、多くの成果を得ています。

体験内容（6月～12月）
田植え、選り分け、稲刈り、生可観察、生き物観察、脱穀機・はき掛け、脱穀、わら加工、調理・収穫祭

平成16年6月4日：田植え
みんなが楽しみにしていた田植えです！
昨年米作りを体験した5年生が、下級生のために田植えの準備をしています。

下級生の手本となり手慣れた様子でつぎつぎに植えています！
後から下級生が興味津々！！

茨戸米「米作り」の体験内容

広げよう つなげよう 環境学習の輪



実施校から メッセージ

環境学習は、身の回りの環境に子ども自らが問題意識をもち、動きかけることからスタートします。ですから、子供たちにとって身近で、簡単に調べ触れることのできる題材を学習として構成することが大切です。地域の自然や人的・物的資源の活用も含め、持続可能な学習になるのかを吟味し、全教職員の共通理解の元で進めていく必要があります。短期間で成果を上げようと焦らず、長いスパンで子供たちの成長や活動自体の効果を検証・評価していくために、全教師の多面的な見取りによる補足・修正・強化等の再吟味が重要だからです。体験活動を積み重ね、子供たちの意識に環境を大切に作る心をしみこませ内面化させていく地道な営みが、環境学習を広げ、次世代につなげていくポイントとなります。